

施策評価シート

| | |
|-----|------------|
| 作成日 | 平成20年9月30日 |
| 部署 | 健康保険課 |
| 作成者 | 大澤 幸男 |

1. 施策の情報整理

| 施策名 | 親と子の健康づくりの支援 母子保健の充実を改名 | |
|--------------------|--|----------|
| 目指す成果 | 子どもが健やかに成長発達でき、保護者は安心して楽しく育児をすることができている。実施にあたっては、児童福祉・障害者福祉・学校等の各部門及び民間部門との連携と協働により効果的に行なわれている。 | |
| 施策目標値及び19年度の状況 | 22年度目標値 | 19年度達成状況 |
| | 下記に記載 | 88.00% |
| 施策の達成状況 | 目標をほぼ達成 | |
| 成果目標に対するH19の達成度の説明 | 達成度としては順調に推移している。平成19年度には、健診時のスクリーニング方法の見直し及び電話等による受診勧奨の強化、心理相談等の不安解消策の強化、すこやかタイム等における相談体制の強化、離乳食教室の新規実施など、施策の全体的な底上げを行った結果と考えられる。 | |
| 施策の総括 | おおむね良好 | |
| 施策の方向性 | [施策の方向性の説明] 虐待／育児放棄の未然防止、育児不安・健康不安の軽減による虐待等への進行防止及び小児肥満や生活習慣に起因する疾病の予防は、近年における重要な課題であり、小児期(妊婦を含む)からの介入が大切であるため資源を拡大投資し成果の向上を図る。 事業的には充実してきているが、個々の事業プログラムの多様化を図るとともに、関係機関・各種団体等との連携・協同の仕組みづくりに力を入れる。また、学校を核とした子と親の健康づくり推進体制を整備する(健康な学校づくり) | |
| 他課との役割分担 | 子育てで支援・虐待施策に関しては、主管課 = 福祉課、支援課 = 健康保険課 学校保健施策に関しては、教育総務課(各校) = 主管課、支援課 = 健康保険課 家庭教育学級等の社会教育との連携として、主管課 = 生涯学習課、支援課 = 健康保険課 | |

(2) 分析後の取り組み方針

| 事務事業名 | 今までの進捗状況 | 今後の取組 | 事業費 | |
|------------|--|--|-------|------|
| | 説明 | 具体的方向性 | | |
| 母子健康管理支援事業 | 2歳児健診について電話等による受診勧奨を実施したものの受診率が設定目標に至っておらず、H18年度受診率(86.5%)よりも低下しており、未受診の理由の把握、更なる受診勧奨による受診率のアップが今後の課題となっている。 未受診児については、1.6～3歳児までの期間は健全な成長のためにも重要な時期であるため、家庭訪問、保育園等との連携も含めて対応を検討する必要がある。 健診において精密検査の必要がある児について、未受診が確認されるため、児の健全な成長のためにも100%受診するよう適切に勧奨・支援する必要がある。 | 妊産婦・乳幼児健診の適切な実施により、早期に発達発育状況を確認し、必要な児に対し、医療や療育に結びつけられるよう支援体制を強化する。 また、未受診者の状況を確認し、未受診者に対しては訪問や電話等により積極的に受診していただけるよう勧奨を行う。 | H19決算 | 4518 |
| | | 2歳児健診と歯科保健事業を統合した幼児・児童口腔健診を創設し、適切な予防措置により歯科罹患率の低下を図っていく。 | H20 | |
| | | また、安心して適切な出産を迎えられるよう、妊娠期の不安軽減と経済的負担の軽減を図るため、妊婦健康診査の公費負担を従来の2回から5回に拡大する。 | H21 | |
| | | | H22 | |

| | | | | |
|-------------|--|--|-------|-----|
| すこやかな成長支援事業 | 1.6歳児、2歳児、3歳児健診にあわせ個別相談を実施。また、妊婦(保護者)を対象として、子育て支援センター「さくらんぼ」で共同実施していた、サロン・相談を両親学級として単独実施した。また、栄養支援については、福祉課所管の子育て情報・交流館アップRとの共同事業として実施している「すこやかタイム」を活用し離乳食教室を実施。参加者よりは好評を得ており、結果として妊娠期、乳児期、幼児期における不安軽減と、参加者相互の関係作りなどが行われてきている。健診時等において確認された、発達・発育遅滞等の境界上の児の支援が必要と判断されるため、早期に対策を講じることとする。 | ・妊娠期～産後期～育児期における不安軽減及び父親の育児への関心を高め、安心して出産・子育てができるよう、継続的に支援するためのプログラムを整備し推進する。 | H19決算 | 102 |
| | | ・母親の精神的リスクの軽減、母子の健康リスクの軽減、疾病・虐待・DV等の早期発見・対応のため、早期に積極的に保健介入することで母子の健康と児の健全な発育・発達を支援するプログラムを整備し推進する。 | H20 | |
| | | ・子育て支援センターやアップRとの共同により、保護者同士の情報交換や適切な情報の提供に努める。 | H21 | |
| | | ・学校保健事業への参加について歯科保健のみならず、他分野にわたって積極的に参加することにより、小児肥満・小児糖尿病の減少及び生涯健康の基礎となる適切な生活習慣を身に付けられるよう支援する。 | H22 | |